

2025年度 成人科テキスト

ぶどうの木

第4号



神は二つの大きな光る物と星を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治めさせられた。昼と夜を治めさせ、光と闇を分けさせられた。神はこれを見て、良しとされた。夕べがあり、朝があった。第四の日である。

創世記1章16-19節

名前

常盤台バプテスト教会 「教会の約束」

私たちは、神のめぐみによってイエス・キリストを主と信じ、バプテスマをうけて、主の教会に加わったので、聖霊の助けにより喜んで互いにこの約束をいたします。

私たちは、聖書が信仰の規範であることを信じ、その教えに従います。

私たちは、この教会が人によって成ったものでなく、神によって成ったものと信じます。

私たちは、主の日の礼拝を守り主をたたえ、教会の集まりにつとめて出席し、バプテスマと主の晩餐の二つの礼典を守ります。

私たちは、教会のきよくなること栄えることを祈り、主にある兄弟姉妹の愛をもって愛しあい、互いの喜びと悲しみを共に分けあいます。

私たちは、この教会をささえ、全世界に主の福音をのべ伝え、神のみむねの行われるために、喜んで奉仕し、献金をいたします。

私たちは、日々の祈りと家庭の礼拝につとめ、神よりあずかった子供たちをみむねにそうように教え育てます。

私たちは、きよい心と正しい行いをもって、まことの道をあらわし、隣り人を愛し人々を救い主に導きます。

私たちは、主と会う日まで、この約束を守ります。



10/12 第20課「主にある兄弟姉妹～エクレシア～」

10/19 第21課「愛をもって愛し合う～コイノニア～」

10/26 第22課「喜びと悲しみを共に分け合う～パートナーシップ～」

11/9 第23課「教会をささえるために」

11/16 第24課「全世界に福音を伝えよう」

11/23 第25課「神のみむねの行われるために」

11/30 第26課「喜んで奉仕し、献金をいたします」

執筆担当：【第20～22課】宇佐美 典子 姉 【第23～24課】田中 由記子 姉

【第25～26課】工藤 征治 兄

表紙イラスト：友納 聖子 姉

参考図書

- 「バプテストの教会契約」 1993年 村椿真理 ヨルダン社
「教える喜びと学ぶ喜び」 2009年 朴永基 いのちのことば社
「バプテストの信仰」 2015年 日本バプテスト連盟宣教研究所
「人生を導く5つの目的」 2015年 リック・ウォレン PDJ
「聖書教理がわかる94章」 2016年 J・I・パッカー いのちのことば社
「バプテスト教理問答書」 2004年 鈴木昌 訳編 東京聖書教会
「10代から始めるキリスト教教理」 2022年 大嶋重徳 いのちのことば社

神の家族

D A Bm G D A
ど ん な ほ う せ き よ り う つ く し く と う と い か み

D A Bm G A D A
の あ い に よ っ て む す ば れ た か ん け い か み

D A Bm G D A
の か そ く キ リ ス ト に あ っ て ひ と つ か み

Bm A F#m Bm Em A D
の か そ く え い え ん に つ づ く か そ く

A D A D
ひ と つ の か ら だ 分 け あ う ー 欠 け て は な ら な い そ ん 在 と も

G A F#m Bm Em A D
に 泣 き と も に よ ろ こ ぶ あ い に よ り た て ら れ て い く

どんな宝石より 美しく尊い
神の愛によって 結ばれた関係

神の家族 キリストにあって一つ
神の家族 永遠に続く家族

一つの体 分け合う
欠けてはならない存在
共に泣き 共に喜び
愛により建てられていく

主の手足になろう

C Em Am A7 Dm F G Dm

1. みんなで とともにいのろ う (手拍子) にほんの
 2. みんなで じゅうじかをとろ う せかいを
 3. みんなで でんどうし よ う ふくいんを

G7 C Em C7

リバイバルを (手拍子) 主の ころは ひでもえてい
 すくうために 主の みーては きずついてい
 みたすために 主の あーしは いたんーでい

F C G7 C F/C

る (手拍子) みんなで もやさーれよ う
 る みんなで 主のてーになろう
 る みんなで 主のあしになろう

C7 F C

おし み な ーく あたえた主 に おし み

G7 C F/C C

な く ささげ よ う ー

～10月の約束文～

私たちは、教会のきよくなること栄えることを祈り、主にある兄弟姉妹の愛をもって愛し合い、互いの喜びと悲しみを共に分け合います。

父なる神のもとに神の子どもたちが招かれ、呼び集められるところが教会です。教会につながる私たちはひとつの家族であると言われます。神さまによって集められた私たちは「主にある兄弟姉妹」となり、世代や国籍、社会的地位や立場を越えて名前の下に「兄」や「姉」を付けて、親しく呼び合い、共に礼拝をお献げし、主を中心とした交わりの中で互いを励まし助けて祈り合い、共に成長していく群れ（神の家族）です。

1. 家族（ファミリー）

家族というと、「血縁関係」や「肉親」との関係をイメージするのが普通です。家族のひとりひとりはもちろん大切ですし、帰る場所・心と体が休まる場所・プライベートな空間として「家」は私たちに安心感を与え心の支えとなります。そもそも、神さまが「人がひとりではいるのはよくない」とお考えになり、人類最初の家族を創られたことは創世記に記されています。神は人に自立できる性質(自由意志)を与えておられますが、同時に人はひとりだけでは生きてはいけません。神や人との関係を断って孤立したり孤独でいるのはよくありません。人は人と関わり合うよう創られました。誰かと関わる中で初めて人としての神の望まれた本来の姿になれるのです。

エフェソの信徒への手紙 2章19－21節

従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。

詩編 133編1節

【都に上る歌。ダビデの詩。】

見よ、兄弟が共に座っている。

なんという恵み、なんという喜び。

2. 神の家族

私たちは、神から愛され赦されているということを知り、その恵みを信じたとき、神の大きな愛により力を受けて、隣人を愛し共に生きる者とされます。主イエスの教えに従い、互いに愛し合い、共に分け合い、祈り合う霊的な関係、神の家族とされるのです。この霊的な関係・つながりの土台にはイエスさまがおられます。そして私たちは、この神の家族に新しい家族を増やすようにという主イエスの命令を受けています。主イエスは疲れている人、重荷を負っている人をいつも招いておられます。疲れをいやし、重荷を下ろすことができるのは主イエスただおひとりだけです。私たちはひとりでも多くの人が神の家族（教会の群れ）に加わるよう祈りを合わせていきたいと願います。

現代の日本では基督教の信徒は総人口比1.0%以下とされています。明治時代に本格的に基督教が伝えられた日本では、教育や医療、福祉、音楽、文化等の様々な分野に基督教文化が浸透していると言えるのですが、それは表層的なものに留まり信仰が深化をもたらすまでには至っていないことが実情であると考えられています。それでも基督教の様々な分野の働きによって、何らかの影響や感化を受けた多くの方々を教会につなげ、神の家族に迎えることは教会の大切な働きです。

ヨハネによる福音書 4章13－14節

イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」

3. 神の家族の成長

人を癒やすことができるのは主イエスの「いのちの水」だけです。私たちはもうすでに「いのちの水（み言葉）」をいただいております、このイエスさまがくださる「いのちの水」はどんどん溢れて私たちの内で泉となり渇くことはありません。「いのちの水」を求めて教会に来る人たちに分けてあげましょう。そして新しく神の家族になる方たちが安心できる場所を整えてまいりましょう。いのちの水・み言葉が溢れる教会で神の家族が共に成長していくことを主イエスは喜んでくださいます。

詩編133編1節は、兄弟が共に座っていることがどれほどの恵みであり、喜びなのかを歌っています。御父である神と御子イエスがひとつであるよう、主にある兄弟姉妹がひとつとなること、共に座ることを神は切に願っておられます。それぞれ個性を持ち、多様性を持った私たちが主イエスによってひとつとされ、神の家族とされたということは恵みであり喜びなのです（エクレシア）。そしてそれぞれの持っている賜物を神の家族がさらに成長していくために用いていきたいと願います。

テモテの手紙Ⅰ 3章4－5節

自分の家庭をよく治め、常に品位を保って子供たちを従順な者に育てている人でなければなりません。

自分の家庭を治めることを知らない者に、どうして神の教会の世話ができるでしょうか。



話してみましょう

- 家族とコミュニケーションをとるように神さまともコミュニケーションがとれていますか？
- 神の家族にとって大切なことは何だと思いますか？
- 人間関係が希薄なこの時代ですが教会の交わりも変わってきたと思いますか？

10/19 第21課 「愛をもって愛し合う ～コイノニア～」

～10月の約束文～

私たちは、教会のきよくなること栄えることを祈り、主にある兄弟姉妹の愛をもって愛し合い、互いの喜びと悲しみを共に分け合います。

神の愛（アガペー）はだれひとり漏れることなく無条件に一方的に与えられる無償の愛、恵みです。人は神に愛されることで真の愛を知ることができます。神の愛を知った人は人（隣人）を愛することができます。自己中心の私たちだけでは真の意味で互いに愛し、赦し合うことが出来ないことを神はご存じでした。それゆえ神が私たちに現わしてくださった最大の愛は、御子イエス・キリストを私たちのもとに遣わしてくださったことです。

ヨハネによる福音書 13章34節

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

1. 新しい掟

新しい掟とは何が新しいのでしょうか。互いに愛し合うことがそこまで新しいこととは思えません。「私が愛したように」と言われる主イエスの存在が新しいのです。では主イエスはどのように愛されたのでしょうか。徹底的に、時には激しくひとりひとりを愛されました。その中には社会の片隅に追いやられていた人や、汚れた存在とされていた人もいました。また、ペトロという弟子は自分の危機のときに主イエスのことを「知らない」と三度も言ってしまったことがありましたが、それでもイエスは変わらずに友でいて愛してくださいました。また、ご自分のことを裏切ったイスカリオテのユダのことも主イエスは親しく「友よ」と呼んでおられます。主イエスの愛は分け隔てがなくすべての人に向けられています。その愛を受けた私たちは主イエスに倣って愛することを実践できる器に変えられていくのです。

2. フィレオーとアガペー

「愛」が掟ということに少し違和感や戸惑いを覚えるかもしれません。なぜなら愛することや愛し合うということは、誰かに強要されてするものではなく、自然に湧き上がる感情ですから。この人間的な感情や気持ちによる愛をフィレオー（友愛）と言います。友情や絆、信頼など人格的な愛のことです。イエスが語る愛は神の愛、永遠の愛、究極の愛などを現わし、これをアガペーの愛と言います。自分自身を大切に思うようにまわりの人たちのことも大切にすることが土台であり、親子愛や恋人同士の愛などとは違います。マザー・テレサは「愛の反対は無関心だ」と語りました。誰にも望まれていないと覚えることが最もつらいことなのです。愛をもって多くの人々に真剣に接した

マザー・テレサならではの言葉ですね。私たちも、ひとりひとりが主イエスに助けをいただきながら尊い存在であるとお互いに関心を持ち祈り合える群れである教会（コイノニア）でありたいと願います。

ヨハネの手紙Ⅰ 4章10－11節

わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

3. 主に倣って愛する

アガペーの愛はぶどうの木とその枝のように、主イエスにつながることによって知ることができます。とは言え、私たちは誰かに何かをしてあげたら、その見返りを期待したり、感謝されないことに腹を立てたりしてしまうこともあります。「だめだね、全然愛が足りないね」と自分自身を反省することもたくさんあります。でも主イエスは私たちを責めたりしません。本当の愛はどこから来るのかを聖書を通していつも私たちに語りかけてくださっています。自分に愛がないことに気づくことが神の愛に近づくことです。主にある兄弟姉妹が二人、三人…と増えて、やがて社会全体に広まるように、主イエスの愛に倣って、愛をもって愛し合っていきたいと願います。



話してみましょう

- ・ 隣人によって心の雲が取り払われた経験はありますか？
- ・ 友の存在の背後に神の臨在を感じたことはありますか？
- ・ 自分が何であるかに気づき本当の自分になっていくためにはどうしたらよいと思いますか？



10/26 第22課「喜びと悲しみを共に分け合う～パートナーシップ～」

～10月の約束文～

私たちは、教会のきよくなること栄えることを祈り、主にある兄弟姉妹の愛をもって愛し合い、互いの喜びと悲しみを共に分け合います。

私たちの人生は、時として望まない試練に遭ったり、思いがけないアクシデントに「どうしてこんなことが」と神に問いたくなるようなことが起きます。しかし、すべての問題の背後には神の大きな目的があります。神はどんな喜びにも悲しみにも寄り添って下さり、私たちの重荷を一緒に負ってくださいます。神が私たちに何を学ばせようとされているのかを自分ひとりの内面に問いかけるだけでなく「神の家族」と共に分かち合いの中で見出すことができるならば、それは望外の喜びであり、慰め、励ましは信仰の成熟となります。共に手を取り合って、励まし合って教会を建て上げてまいりましょう。

ローマの信徒への手紙 12章10節

兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。

ローマの信徒への手紙 12章15節

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

1. ご大切

主イエスは最も大切な掟は神を愛し人々が互いに愛し合うことだと言っています。日本に最初に来た宣教師たちはこの「愛」を「ご大切」と訳し、愛という言葉が普段使わなかった日本人にわかりやすく伝えたそうです。愛するということは大切にすること、ここに愛があります。

2. 何（誰）のために生きるのか

童話作家・やなせたかし氏が生み出したアンパンマンは困っている人、悲しんでいる人に「ぼくのかおをあげるよ」と声をかけパンを分けてあげ寄り添います。そうすると今まで泣いていた人はたちまち力が湧いて元気になります。このアンパンマンの姿は、喜びも悲しみも共に分け合って共に生きるという大切なメッセージを伝えていると思います。

また、アニメのアンパンマンの主題歌は「♪なんのために生まれて なにをしていき
るのか わからないままおわる そんなのはいやだ!」こういう歌詞なのですが、神さまからたくさんの恵みをいただいているのに、それに応えて主のみこころを行えているだろうか、生きていく目的は何なのか、また誰かのため、教会のためになる助けや働きはできているかを改めて考えさせられます。

しかし教会の中で生きることは簡単なことではありません。イエスさまのように教会を愛することは私たちの教会の痛みを目を背けないでしっかりと見つめ、あきらめている問題や課題を祈り、聖霊の励ましを受けて助け合い解決していくことです。教会の苦しみや痛みを批判することのほうがむしろ簡単です。教会と共に生きることを選ぶほうが辛く、愛すること選ぶのは辛く、さらに勇気が必要です。それでもイエスさまは問題を抱えた教会であっても愛することを選んでくださり私たちに愛と勇気を注いでくださっているのです。

コロサイの信徒への手紙 3章12－14節

あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。

3. パートナiership

共に喜び泣くということは、ひとりではできません。神に選ばれ招かれた私たちがお互いを信頼する兄弟姉妹だからできることです。それぞれのライフスタイルはいろいろです。抱えている悩みや問題もそれぞれ異なるでしょう。愛と憐れみの心を持って隣人に接することは決してやさしいことではありません。それは相手の心のニーズ（必要）を感じ取ることが必要であり、またどんな不誠実な態度を示されても、誠実な心を持って受け止めていく忍耐力と勇気が求められます。それでも自分の隣りにいる人に関心を持ち、大切な存在であると認め、神の愛と恵みを分かち合っていけたら私たちの人生は本当に豊かなものになります。最も一番に大切なことは、何のために神が私たちが神に似せて創られた、何のために生きるのかを知ることなのです。



話してみましょう

- かけがえのない大切な存在として隣人に接していますか？
- 神から愛されていることを疑わず、人に温かい心に向けていますか？
- 失態を演じたり思わぬ事態に直面したとき、頼りにしたい人はいますか？

～11月の約束文～

私たちは、この教会をささえ、全世界に主の福音をのべ伝え、神のみむねの行われるために、喜んで奉仕し、献金をいたします。

神さまが与えてくださった教会に呼び集められた私たちですが、そのことにただ感謝し、恵みを受け取るだけでよいのでしょうか。私たちは、神さまに祈り、すべてをお委ねして生きることをゆるされていますが、すべてお任せして、自分は何もしなくてよい、ということではありません。

神さまのご計画に叶って教会を存続させ、豊かな働きをしていくために、宗教改革者たちやバプテストの先駆者たちが目指したのは、神さまの言葉である聖書を正しく説教し、主の晩餐式とバプテスマを正しく執行する真の教会を築くことでした。そのためには、神さまの霊的な力と、教会をささえるために神さまが私たちに託された霊的な賜物を用いて行う奉仕、その両方が必要なのです。主イエスが託された地域教会であるこの常盤台教会が、この地で、み言葉を伝え続けていくために、私たちは何をすべきか、考えてまいりましょう。

マタイによる福音書 18章19-20節

また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。

1. 集い、祈りあう

私たち一人一人と神さまとの関係はとても大切です。ぶどうの木と枝のように一人一人がしっかりと神さまにつながっていなければなりません。しかし、兄弟姉妹とともに祈ることも同じように大切であると聖書には書かれています。

もちろん、一人で祈ることも私たちには必要ですし、一人で祈った祈りも神さまは聞いてくださいます。しかし、「祈りを合わせること」「互いに祈り合うこと」は、祈りの力を大きくし、兄弟姉妹の絆を強くし、私たちを成長させます。教会で共に祈る時、そこには、「一人の信徒」「一人のクリスチャン」にただ留まるのではなく、「神の家族」の一員とされていく喜びがあります。教会の一員となって霊的に成熟し、神の家族をささえる成長したクリスチャンとされていくのです。

ペトロの手紙Ⅰ 4章10節

あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。

2. 賜物を生かす

人がうらやむような才能を持っている人、取り立ててこれといった才能を持っていない人、世の中には様々な人がいます。しかし、私たちは神さまからそれぞれ賜物を授かっています。社会的に高い評価を得られる才能や能力と、キリストとの出会いによって神さまから与えられる霊的な賜物は異なるものです。「自分なんて…」と思っている方は、まず、教会を建て上げ、ささえるために、自分が神さまから授かっている賜物を見つけましょう。そして、賜物は自分がいただいたものだからと隠しておくのではなく、良き管理者として、その賜物を生かして、ご奉仕しましょう。

マタイによる福音書25章14節～30節の「タラントンのたとえ」もぜひ読んでみてください。

主人から資金を預けられた3人の僕がいました。2人は商売をしてもうけましたが、1人は失敗してはいけないと思い、土に埋めておきました。旅から帰った主人は、資金を増やした2人を誉め、土に埋めておいた1人に対して、怒りを表しました。

これは、商売の話ではありません。増やした額が問題なのでもありません。主人を信頼し、主人の信頼に応えるために、預かった資金を用いて努力した2人に対し、残りの1人は、失敗を恐れ、主人が失敗を責める人であると誤解して、自分の身を守るために何もしないことを選択するという罪をおかしたのです。

私たちはどうでしょう。「自分にはできない」「やるのは大変そう」などという思いから、いただいた賜物を隠していないでしょうか。

いつの日か、天の国で神さまにお会いするときに、「私はあなたからいただいた賜物を用いてこれだけご奉仕させていただきました」と胸を張って言えるよう、仕えてまいりましょう。

マタイによる福音書 23章11節

あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。

ローマの信徒への手紙 12章10節

兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。

ガラテヤ人への手紙 6章1節

兄弟たち、万一だれかが不注意にも何かの罪に陥ったなら、“霊”に導かれて生きているあなたがたは、そういう人を柔和な心で正しい道に立ち帰らせなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。

3. 互いに愛し、仕え、励まし合い、祈り合い、共に成長するために

自分が霊的に成長すること、賜物を生かして仕えることは大切です。しかし、自分のことにばかり目が向いて、自分とは違う考え、やり方の人を批判したり、排除したりしてはいけません。

互いに愛し合い、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさいと、パウロは語ります。人間は弱いものです。自分はこんなに知っている、長く携わっているなど、優越感を持ち、人を下に見てしまうことがあります。神さまの子どもでありながら、一番低くなって、下から私たちをささえ、助けてくださったイエスさまのことを思い、へりくだることの大切さを思い起こしましょう。

また、兄弟姉妹が、何かの罪に陥った時は、責めて、追い出すのではなく、柔和な心で正しい道に立ち帰らせなければなりません。「柔和な心で」というところがとても難しいですね。人は、自分のためには赦しを求めますが、他人に対しては自分の思う正義を求めてしまいます。しかし、イエスさまは反対のことを教えておられます。何度となく罪をおかす私たちをイエスさまがどれほど柔和な心で見守って、引き上げてくださっているかを私たちは知っています。イエスさまに倣うものとして歩んで行こうとすると、私たちは共に成長して教会をささえる者へと変えられていくのです。

- 教会をささえるために自分にできることは何でしょうか？
- 神さまがあなたに与えてくださった賜物について分かち合ってみましょう。



話してみましょう ● 教会をささえるために、兄弟姉妹と仕え合うには、何が必要でしょうか？

～11月の約束文～

私たちは、この教会をささえ、全世界に主の福音をのべ伝え、神のみむねの行われるために、喜んで奉仕し、献金をいたします。

教会の働きの中で、主の福音をのべ伝えることは、最も大切なことの一つです。常盤台教会のミッション・ステートメントは次の通りです。

1. 主イエス・キリストより託された福音宣教の業すべてを通して、神の栄光を現します。
2. 主にあって招かれるすべての人々と共に神の恵みに与り、互いに愛し仕え合います。
3. 地の塩、世の光として、この地にキリストの平和を実現し、神の国を証しするため、全世界へと遣わされます。

「主にあって招かれるすべての人々」が伝道の対象とされています。そのために私たちが「地の塩、世の光」としての福音宣教の働きをすることを神さまは期待しておられます。

神さまによって創られ、決して揺らぐことのない神さまの愛の中に生きる私たちには、キリストの弟子として、聖書のみ言葉に堅く立ち、神の愛、み言葉の真理、救われた喜びの恵みを証ししていくことが託されています。神さまからいただいた恵みを自分の胸の内に大切にそっとしまっておくのではなく、一人でも多くの方がイエスさまと出会うことができるよう、そのお手伝いをしてまいりましょう。

マタイによる福音書 28章19－20節

だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によってバプテスマを授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。

フィリピの信徒への手紙 4章9節

わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

1. 大宣教命令

復活されたイエスさまは、弟子たちと過ごし、再び天に帰られる前に、このみ言葉を弟子たちに伝えました。神さまにできないことはありません。ですから、神さまがこの地上のすべての人の心に福音を告げ知らせることもおできになります。しかし、神さまはそうはなさらず、弟子たちにのべ伝えることを託されました。弟子たちが人々に伝え、それを聞いた人々がまた別の人々に伝え、長い年月をかけて日本にも伝えられ、今、私たちが救われているのです。そして、このみ言葉は、現代の私たち一人一人に語られている言葉でもあります。

また、「すべての民をわたしの弟子にしなさい」とおっしゃっています。イエスさまのなさったことやおっしゃった言葉をただ伝えなさいとおっしゃっているのではないのです。「弟子になる」とは、イエスさまを受け入れ、イエスさまに倣って、イエスさまのように生きるということです。

それは、簡単なことではありません。自分自身も弟子になり切れていないところがあるのに、すべての民を弟子にしなさいとおっしゃるのです。また、勇気を出して、出かけて行って、福音を伝えたところで、受け入れられるとは限りません。拒否されるなら、変な目で見られるなら、その人との関係が悪くなるなら、伝えるのはやめておこうかと思ってしまう弱い私たちです。

しかし、イエスさまは「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」とおっしゃっています。私たちに宣教を託して、「あとはよろしく」と天の御国へ行ってしまわれたのではないのです。神さまのみ言葉を伝えるために私たちを用いていただきますように。

マタイによる福音書 24章11～14節

偽預言者も大勢現れ、多くの人を惑わす。不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷える。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そして、御国のこの福音はあらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る。

2. 主の福音

福音とは「良い知らせ」です。主の福音とは、イエスさまの誕生、歩まれた生涯、語られた言葉、なされた奇蹟、イエスさまの十字架と復活、また、そのことによって私たちの罪が贖われ、救われたこと…それら全てです。これらのことは、神さまの愛がなければ、ただの歴史的な出来事であり、自分とは遠い所の出来事に過ぎません。

神さまの愛が注がれ、私たちがその愛を受け入れた時に、本当の「良い知らせ」となるのです。

しかし、福音を伝えるのは簡単なことではありません。心が固くなって、神さまの言葉を受け入れられない人、神さまのことばと偽って、耳に心地いい、うわべだけの言葉を伝える人、自分の信仰だけが正しいと思い込むあまり、他の人を批判する人など、様々な障害が立ちはだかります。それでも、「最後まで耐え忍ぶ者は救われる」「御国のこの福音はあらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられる」とはっきりと約束してくださっています。その約束を信じて、福音を伝える者となってまいりましょう。

ローマの信徒への手紙 10章14節

ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」と書いてあるとおりです。

3. わたしたち一人一人が宣教者に

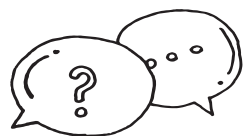
宣教は、牧師や宣教師など、一部の人が担う働きではなく、全てのキリスト者の使命です。神さまに招かれて教会に来て、クリスチャンになった私たちは、主イエス・キリストのもとに集うように召されただけでなく、主の福音を伝えるために出ていくものとして召されたのです。

必ずしも、海外など遠い所へ行きなさいとおっしゃっているわけではありません。今の仕事をやめ、福音宣教のためにすべての時間を使いなさいとおっしゃっているのではありません。

仕事をしながら、学びながら、家族の世話をしながら、友人や知人と交わりながら、伝えられる福音はたくさんあります。霊的に成長した一人一人が集まって、礼拝や集会、奉仕や交わりによって、健康な共同体が作られ、聖霊に満たされる時、私たちの行いや言葉を通して伝えられる福音は、必ずや隣人の心に届くはずですよ。

また、多様性社会の実現が叫ばれている今、ひとつの教会がすべての人の求めに応じていくことは困難です。そこで個々の特徴をもった各教会が連携して多様なニーズに応じていく協力伝道も必要となっていくのです。

福音を伝えたい人を心に思い浮かべながら、今日も、聖霊に押し出されて、一歩踏み出してまいりましょう。



話してみましょう

- すべての人をイエスさまの弟子にするために、私たちにできることは何でしょうか？
- あなたに福音を伝えてくれた人は誰ですか？
- あなたが一番福音を伝えたい人は誰ですか？

～11月の約束文～

私たちは、この教会をささえ、全世界に主の福音をのべ伝え、神のみむねの行われるために、喜んで奉仕し、献金をいたします。

神は目に見えません。目に見える形あるものはいつか壊れます。目に見えない神は永久に存在します。目に見えない神を信じる事と「神のみむね」は何かを考える事が、人生にとって重要です。

「何があっても私は変わらない」と言う人がいますが、実社会の影響と時の経過で、気が付かない内に変わっていた自分に、ある時気づきます。そのある時に、キリスト教と出会い、神の存在とイエス様を知らされ、変えられた方は幸いな人です。私もその一人です。

1. 神のみむねがあらわされた一般恩寵

イザヤ書 44章2節

【新共同訳】

あなたを造り、母の胎内に形づくり/あなたを助ける主は、こう言われる。
恐れるな、わたしの僕ヤコブよ。/わたしの選んだエシュルンよ。

【Contemporary English Version】

I am your Creator. You were in my care even before you were born.

(わたしはあなたの造り主。あなたが生まれる前から、あなたはわたしの配慮の中にあつた。)

自分の意思で生まれて来た赤ちゃんは1人もいません。また、親の意思だけで生まれるかどうかが決まるものでもありません。赤ちゃんは親の意思だけではなく、神のご意思で世に生まれる、と考えるのが正解ではないかと思われています。赤ちゃんは親にとってかけがえのない存在であるだけでなく神の愛する子(被造物)なのです。ですから私たちは教会の約束のなかで「神より預かった子」と告白しているのです。

イザヤ書 44章2節

わが子よ、あなたの心をわたしにゆだねよ。喜んでわたしの道に目を向けよ。

自然の植物や動物の世界は弱肉強食の世界ですが、そんな状況の中で各々の種の保存のバランスは保たれています。他を徹底的に排除はしません。このことから自然の世界が「神のみむね」に適った創造の業であることの偉大さを知ることができます。これを神の一般恩寵といいます。

神が天地を創造されたとき「極めて良かった」といわれたこの地上での命と魂をまもる平和共存こそ、「神のみむね」の大きな1つだと思うのです。宗教や国境の隔ての壁を越えて共存/共栄する事が今こそ、求められています。

私は50年前の30歳代のころに、仕事でインドネシアに3年間滞在しました。ある時、現地の20歳位の青年から、「あなたの宗教はなんですか?」と聞かれました。私は「日本は仏教国だけど、私は仏教のことをよく知らないし、勉強したこともない」と答えたら、その青年は「では、コミュニスト(共産主義者)ですか?」と来たので、「いや違う」と言ったら、「あなたは一体何なのですか?」と言われました。つまり、世界では人は宗教

とか信じるものを持っている事が当たり前なのです。葬式などの儀式はするが仏教徒でもなく、むしろ無宗教に近い人たちが多い今の日本は世界的にみれば例外なのです。そういった真の神を知らない方々にキリストの福音を伝えていくのは教会の一番に大切な神から与えられている使命なのです。

2.神のみむねがあらわされた特別恩寵

今、ウクライナ/パレスチナ・カザでの戦争、ミャンマーの内紛、また中国ウイグル/チベットの民族浄化問題等、私たちの知らない世界の何処かでも多くの人たちが犠牲となり、苦しんでいます。それは神の望まれている世界ではありません。人間の罪の結果でもあるのです。

旧約聖書では、多くの悲劇の話がありますが、新約聖書では、悲劇を回避する方法を学ぶ事が出来ます。それは「神のみむね」によってこの世の救いのために遣わされたイエス・キリストに出会い、罪を悔い改め、ひとりも滅びることなく救いに与ることを神は望まれている事実を知ることです。これを神の特別恩寵といいます。

ヨハネによる福音書 3章16節

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

特別恩寵に与り、救われた方々を招いて地域教会(各個教会)を建て上げ、一人ひとりがキリストの弟子となり教会が神の栄光をあらわし続けることが「神のみむね」が地上に実現していることの証しとなるのです。私たち一人ひとり小さな器ですが、その働きのために献身することを神と教会の人たちの前に約束しているのです。

神の御子イエス・キリストを信じ、愛した人は、全き罪の贖いを受けて永遠の命に与る道を神は開いてくださったのです。

マタイによる福音書 6章9－13節

だから、こう祈りなさい。

『天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。

御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも。

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。

わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。』



話してみましょう

- 今の世界は、神さまが「極めて良い」と感じる世界になっているでしょうか。
- イエスさまとの出会いで、あなた自身はどのように変えられましたか。
- 教会がますます豊かに伝道をしていくために、大切なことは何だと思われますか。

～11月の約束文～

私たちは、この教会をささえ、全世界に主の福音をのべ伝え、神のみむねの行われるために、喜んで奉仕し、献金をいたします。

教会が神のみ旨を行っていくために、献金による支えも、奉仕（働き）による支えも欠くことはできません。しかし、私たちの奉仕や献金は、会社のために働いたり、町内会に会費を納めたりするのとは異なる行為です。奉仕や献金に込められた信仰について、考えてまいりましょう。

ローマの信徒への手紙 12章4－7節

というのは、わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから、預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。

1. 賜物と奉仕

野生の動植物は殆どが親と同じ性質を持っています。ところが人の遺伝子は雑種性で、形質が親と似ている子はいても、親と同じ子供はいません。1人1人が別個の形質を持っています。このように神は私たち一人ひとりに自由意志をお与えくださり自立した神の子として立ててくださいました。そして、イエス・キリストを信じたときに聖霊が一人ひとりに教会を建て上げるための賜物を与えてくださるのです。

それは時として生まれながらの才能や能力と一致しないこともあります。自分の才能を活かしたいという願いや誘惑から謙遜に神の前に与えられた賜物がなんであるかを祈り知ることが大切です。

コリントの信徒への手紙Ⅰ 12章27－28節

あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。

日本社会は人の同質性を重んじ、異なった能力を伸ばす事を軽視します。どんな子供も生まれながらに、1つは優れた能力を持っています。本当は、これ等の能力を育て、社会に役立てる事が必要です。まだクリスチャンでなかった頃の私の子育てを反省してみると、仕事と家庭サービスで精一杯で、子供の固有能力を伸ばそうという意図に欠けていました。クリスチャンになってから、このような事を考えるようになりました。才能や能力は個人や社会一般の生活に大きく寄与します。それを役立てて豊かな人生となる恵みがあります。同様に賜物は教会を豊かに形成していくために個々の信徒に与えられるものです。賜物も能力も与えられているのは神の恵みです。けれども、それは誇るものであってはなりません。教会は普段から見えないところで賜物を活かして奉仕されている方々によって実は支えられているのです。

コロサイの信徒への手紙 2章19節

この頭の働きにより、体全体は、節と節、筋と筋とによって支えられ、結び合わされ、神に育てられて成長してゆくのです。

人をお創りになった神はどんな子供でも成人でも、全ての人が持っている能力と賜物を活かすことを望んでおられます。いろいろな能力と賜物が集まり、教会を建て上げることを、神は望んでおられるのです。教会で必要とされる奉仕には、様々な種類があります。しかし、そこには優劣はありません。

2. ささげる信仰 ～献金

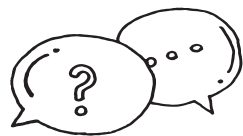
コリントの信徒への手紙Ⅱ 9章6－7節

つまり、こういうことです。惜しんでわずかしき種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです。各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。

教会は営利行為をせず、約束した献身(献金)で運営されます。献金は自分の祈りや願いを聞いてもらう御利益のための賽銭のようなものや、会費のようなものではありません。神からの溢れる恵みに感謝し、喜びの応答として、また献身の証しとしておささげるのです。

今、常盤台教会はウクライナ難民支援援助をしているポーランドのバプテスト教会を支援したり、米国・カリフォルニアのサドルバック教会から何回も常盤台教会へ宣教団が訪問されたり、また、国内外の数々の宣教者をお迎えし、とても活発で有益な宣教活動をしています。この様な活動ができるのは、教会員初め多くの方々の祈りと尊いささげもの(献金)で支えられているからです。他の信徒の方たちが献金されているから、自分は控えてもよいだろうと考えるのではなく、喜んで感謝の気持ちを添えてささげる信仰をあらわしましょう。

日本の内外で、雨不足による不作や、集中豪雨で田畑の作物が流され、被害は数億円というニュースを度々見ます。天候異変や地震は、現代科学ではコントロール出来ません。天変地異の下、万物を創られた神によって、我々は生かされています。この事を感謝して祈り仕える教会に対し、この地上で神の恵みで得た収入(収穫)の初穂を毎月かささず、感謝と喜びを込めてささげる(献金する)信仰生活を共に励まし合って歩んでまいりましょう。



話してみましょう

- あなたに与えられた賜物は、何だと思いますか。
- 「奉仕や献金」を「喜び」をもって捧げられていますか。
- 日々の中で、神さまに感謝を覚えた出来事を分かち合いましょう。

コラム「十一献金とは」

聖書では収入の初穂の十分の一をささげることを勧めています。これは収入(収穫)の恵みすべては神によるものという信仰が私たちには与えられており、その残りの十分の九の用い方は私たちの良心と自由にまかされているのです。

マラキ書 3章10節

十分の一の献げ物をすべて倉に運び わたしの家に食物があるようにせよ。これによって、わたしを試してみよと万軍の主は言われる。必ず、わたしはあなたたちのために天の窓を開き祝福を限りなく注ぐであろう。

